

日本連盟創立100周年に向けて

ボーイスカウト再興への道

シリーズ(3) 登録料改定の真意



昨年5月の全国大会における奥島理事長の「非常事態宣言」に端を発して、10月の理事会で「日本連盟100周年財政ビジョン提言書」が承認され、これに基づいた日本連盟財政再建のための施策の一つである「登録料の改定」が、本年3月に開催した臨時評議員会で承認されました。本シリーズで前号まで見てきた加盟員減少という厳しい現状下での登録料の改定には、さまざまなご意見があるかと思いますが、改革を進めるための今回の改定についてご理解いただくべく、その真意をお伝えしていきます。

ボーイスカウト日本連盟のこれまでの財政状況

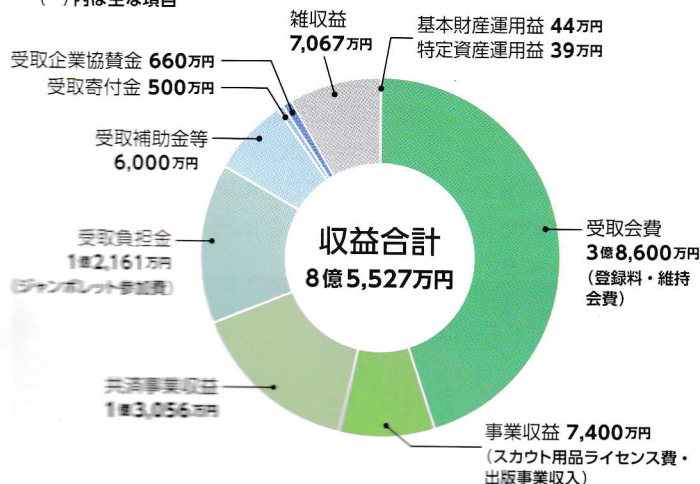
長年にわたる加盟員数の減少は、日本連盟の運営を厳しいものにしていきます。2012年に登録料の改定を行いましたが、連盟の財政は実際には厳しい状況が続いていました。23WSJをはじめとする大規模事業の収支が重なる公益財団の会計方式の特異性もあり、連盟の単年度の収支実態が正しく認識しづらく、また、当時予測した加盟員数の見込みに対してそれを上回る加盟員減少も相まって、累積赤字が大きく積み重なってしまったのです。財務委員会が昨年編成した「100周年財政ビジョンワーキングチーム」の分析により、財政再建のための明確な施策が早急に必要事態にあるということが明らかになってきました。

スカウト運動再興に向けた最大の課題は加盟員の増強

財政の立て直しのためには、さまざまな経費の削減や事業の縮小など支出を抑える取り組みとともに、寄付や募金、協賛金の強化、施設利用の促進など収入を増やしていく取り組みが欠かせません。しかし、日本連盟の最大の財源は登録料(下図の「受取会費」)であり、加盟員の増加が財政の健全化に直結するといっても過言ではありません。加盟員を増やすことは班制教育の活発化に繋がり、スカウト運動の社会認知度も上がるでしょう。その結果として加盟員をさらに増強し、より力強く本運動の目的である「青少年の健全育成に寄与」してこそ、スカウト運動の再興となるのです。

■ 2017(平成29)年度予算

()内は主な項目



100周年に向けての加盟員数目標

日本連盟では、財政再建策の基礎とするべく、昨夏、全都道府県連盟に「100周年までの加盟員数」の見込み調査を行いました。およそ1か月間という短期間での調査依頼にもかかわらず、すべての県連盟から回答があり、その多くは日本連盟での予測値よりも高い数値、いわば目標を掲げてくれています。これらを基にさらに減員予測も含めたさまざまな要素を

加味して100周年に向けての全国的な加盟員数の数値予測を設定し、財務委員会ではこの人数に基づいて必要となる財政の見直しを行いました。

■ 2022年(100周年)までの加盟員予測数

年	2018	2019	2020	2021	2022
スカウト数	53,967	56,641	57,220	58,358	61,615
指導者数	46,775	41,865	41,726	41,999	43,385
合計	100,742	98,506	98,946	100,357	105,000

一時的に10万人を割り込みますが、2021年には10万人台に戻し、2022年には予測の基礎となった2017年のレベルまで回復させ、その後は増員傾向を伸ばしていこう、というものです。

加盟員予測数に基づく財政再建策

国債の不動産化による収入増、大会等の参加者負担金の増額、企業協賛の強化等、さまざまな具体的財政再建策をとるなか、そのひとつとして登録料の値上げを提案しました。理事会および評議員会の承認により、登録料は2019年4月から、スカウト4,000円、指導者8,400円といたします。この金額は、加盟員予測数に基づき設定したのですが、仮にこの予測を上回る加盟員数となった場合には、登録料の値下げも検討する「総収入リンク型」の見直し案ともなっています。

加盟員数増に向けての具体的な取り組み

上記の加盟員予測数は、全県連盟から寄せられた回答にさまざまな要素を加味したもので、上向きとなる数は「中途退団抑止策の効果」を見込んでいます。これは、2016年から取り組んでいる「PR計画」による新規加入者の増加策を補うものとして、「中途退団・非継続の数を減らすための施策」に、ある程度の予算をかけて取り組んでいこうというものです。これこそが、財政再建計画の最大の要となります。

今年度から「中途退団抑止特別委員会」を立ち上げ、施策に取り組んでいきます。その大きな柱として、コミッショナーや組織拡充担当の経験者等でチームを編成し、県連盟・地区を訪問して、地区や団が実際に直面しているさまざまな困難をともに乗り越えていくための具体的な支援をしていくことを構想しています。今までもそうした支援の取り組みの必要性が謳われてはいたものの、そのために人が動く経費はないという状況でしたが、ここに組織を挙げて本気で取り組んでいくべく、5か年の予算を組みます。全国に足を運んで皆さんと一緒に考え、力を合わせてきめ細かな対策を講じていこうという計画が、具体的に進められようとしているのです。

10万人を割り込むかという日本のスカウト運動存続の危機に立ち向かっていく最後のチャンスです。真に意義のあるスカウト運動起死回生のための活性化に向けた施策に、組織を挙げて取り組んでまいりますので、ともに力を合わせてスカウト運動再興の道を進んでまいりましょう！